

IBTTA ザルツブルク会議出席概要報告

ITS・新道路創生本部 中村 徹

REPORT

1 開催日時

2018年のIBTTAのGlobal Tolling Summitがオーストリア ザルツブルクのザルツブルク・コンGRESで開催されました。

会議期間は9月5日～7日の3日間、初日の5日はウィーンからザルツブルクまでバスで移動しながらオーストリアの高速道路、大型車両検査そして高速道路メンテナンスセンターを視察し、6日と7日はセッションが開催されました。セッションは道路課金の他に自動運転、コネクテッドカーなど最近注目されている内容がありました。

IBTTA (International Bridge, Tunnel and Turnpike Association: 国際有料道路協会) とは、橋・トンネル・高速道路などの有料道路事業に携わる事業者の国際団体(アメリカに事務所)です。



図1 IBTTA ザルツブルク会議会場



図2 会場入口

2 IBTTA ザルツブルク会議概要

(1) 9月5日：高速道路、大型車両の重量チェック施設、道路メンテナンスセンターの視察

① 道路課金施設 (図3、4)

オーストリアでは大型車両は車載器を利用した課金、乗用車はピニエットを利用した課金を実施しています。

大型車の課金のガントリー(路側機)は、課金だけのガントリーとエンフォースメント用のカメラも設置されたガントリーの2種類があります。

課金だけのガントリーは8km～9km間隔で設置、短いところでは2km間隔もあり、エンフォースメント用カメラが設置されたガントリーは、20km～30km間隔で設置されていました。

② 大型車両の重量チェック施設 (図5～14)

3.5t以上の車両は施設に入るように路側機で指示があり、すべての3.5t以上の車両が施設に入ります。

施設の入り口で重量を測定し、軸重が重い車両は建物に呼び込まれます。



図3 課金用アンテナだけのガントリー



図4 エンフォースメント用のカメラも設置されたガントリー

このような施設はオーストリアに70か所あり、施設がない地域では移動式の重量測定器でチェックを行います。施設は山間部に向かう路線に設置されています。

年々、重量チェックの台数が少なくなっているとのことです。これはドライバー同士がFacebookなどSNSで連絡を取りあって重量チェックをすり抜けているそうです。



図5 3.5t以上車両の指示
表示板で右車線に入るように指示
指示通りに右側車線を走行すると大型車両重量検査施設に進入



図6 重量測定器



図7 軸重が重い車両は右側の建物へ



図8 各年の大型車両測定台数



図9 重量計測済み車両のナンバー撮影

大型車両のチェック施設では危険物チェックも行っています。危険物は積み荷の確認票で見ますが、外観、臭いでも確認するそうです。

警察の大型車両チェック車両には放射能測定器も常備し、警察の車両取締りは大型車両だけでなくバイクの改造取り

締まりも行っています。

重量測定を実施した大型車両のナンバーを撮影して、センターにその情報を送信し、重量計測を実施したか否かの情報共有を行っています。



図10 移動式重量測定車



図11 重量測部分



図12 重量測定風景



図 13 危険物分析車



図 14 危険物分社車内部



図 15 メンテナンス車両

③ 道路メンテナンスセンター（図 15）

ザルツブルクにあるメンテナンスセンターを視察しました。当施設は主に冬の雪に対応した車両や設備が設置されていました。

(2) 9月6日～7日：セッション会議

セッション会議は各国の最新情報について報告する内容であり、各国の道路課金の状況の他、コネクテッドビークル、協調ITS、自動運転、モビリティサービスの情報提供がありました。国際有料道路協会の会議だが、道路課金以外の報告が多い。

① 道路課金の報告

道路課金の報告では、オーストリアの道路課金の状況と

今後の道路課金について、欧州統一道路課金の状況、世界の道路課金の状況でした。世界の道路課金はペルー、クロアチア、スロベニア、トルコ、アメリカの各国の状況について報告がありました。報告の一部抜粋を図 16 と図 17 に添付します。

ペルーにも ETC はあるが、現金の利用者が多いとのこと。割合は ETC の利用率は 20%、現金の利用率は 80%、ナンバーで課金のエラーチェックを行います、国外のナンバーはチェックできないそうです。

② 道路課金以外の報告

コネクテッドビークルでは、高速道路のメンテナンスに活用出来るのでは？という話題、自動運転車と道路をつなげた活用について報告がありました。

協調 ITS ではオーストリアで検討されている C-ITS（協調 ITS）の通信メディアについて報告がありました。

自動運転では、オーストリアで実施している自動運転の実験状況、アメリカで実施されている自動運転の実験について報告がありました。

モビリティサービスでは、シェアサービスやスマートホンを活用した様々なサービスとの連携について報告がありました。



図 16 クロアチアの報告



図 17 ペルーの報告